鬱齋遺稿　卷之一

F
イ—49

Kitasato Memorial Medical Library

490.4
Su-1
1
No. 1165

富士川文庫
482

下卷末二月

老末花

人よりも老てふ花ふ先つ散れ
たる枝小あふ春花かまさよりも
嘗花恥さ
あさ清し老うたふ花にたるのさ
ゝ山さ清ゝ加先無
春こゝ人我身乃おいさ
れさう毛書ゝ世ゝ

Kitasato Memorial Medical Library

あしたの東雲山ふかき
花もまつ
はるかに清水の
岩ねをとおしの
沢地
春もせゝ
つゝ
山里の
不居谷
大沢の池
山里のそこ乃ゆき
乃さひしけ
かせ
玉津島の
和歌うらの神乃
玉津島山
二柱
山
高
高
清水

かりこそたふあ[illegible]
[illegible]
[illegible]のかけうそ[illegible]
[illegible]ける心乃中[illegible]
[illegible]

時雨

[illegible]
[illegible]

雲

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

折花

桜花をたをりて折て少もの
かせにきてるこゝろをなを
人ゝ人のたりふとも新さく花
つゝしをたをりてたゝの山宮

望越

新人毛のうをとこ
をたをりつゝ
をたをりつゝ
望をこゝろ

以つゝのうをとそをたをる

桃

山人の洞ふ見てふりみれ
いさ人ふ折て言ふ
桃のそ折をもとめて
ふもやをてゝ人む山人の石

たゝの日言ふ
ふ法言ふまゝ
陳言其法りてき

やはのさとにて

演劇

かりよりかへりこしうちもとの寺住居の
たちばのそばへとたうちん
御酒つくりこしたるもなきたふ
まちこしうちきのそばの砂糖
花屋
大京はこはうとかくうすもはに
あるのことおつる少さき花うる

蛍狩

蛍ふりにけるおもあるもの
うちのおもくふうちもその時

遊日

けうそたにあれかたる老の身は
ひう彩をきものつて思ふ去日

星祭

さとくの学ぶたちとのさと
花ふうろのてふ

咲くとも散まとも花とゝもやさん
よゝの星に日暮れ行くを

俗世俗人

俗人の尺もきそのちゝ人わく
却りへいわきたれの名れ
風くまて世ものちもぬへ
もう俗人のたもひます

却人苔
世俗のちゝ俗とゝわくも

たゝ人たゝたゝに立よりたり
ともすれい道行ふりふたゝ
花のあゝひとゝ日とゝしる

苔苔今友
苔のゝ苔のさゝにあひわゝ
ゝもふゝひのゝひわゝとゝ思ふ

あゝと東高山のもゝ不絶て
年ゝゝかゝ友ゝゝもゝゝ
ゝひ山のゝゝ高ゝす

Kitasato Memorial Medical Library

花色ふ[illegible]

[illegible]乃[illegible]も小[illegible]心

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]花のうしろ[illegible]
のこりし霧の白[illegible]舞
[illegible]色に我[illegible]成[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]乃下霧

[illegible]前[illegible]
[illegible]瓶[illegible]
[illegible]の花[illegible]と
[illegible]に[illegible]の[illegible]
[illegible]花[illegible]
[illegible]の日乃
[illegible]火の[illegible]

分花入山路

さく[illegible]毛山路を分てけてゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
山の[illegible]

山茶未[illegible]
山路[illegible]
かせ[illegible]
志賀山越

Kitasato Memorial Medical Library

志賀の山ゆこえられぬさに
さなゆめもうつゝ
波の上ゆれてきえぬほとゝぎす
こえぬ志賀の山さくらかな

志の日さゝなみのもえふ
さかりてつゝとるそ

枝かはさくらもさけりそ
ゝてに花の香を学りたる

甲日後御供そ

きゝすゝ所きゝすゝきを学るきぬ
花こしかたゝ
甲日東秋山ふきりしに
去一二日ふゝ花ちそ
八重のさゝの咲れきをそ
山桜ゑる月の色をそ
ちれはゝ咲をそ

Kitasato Memorial Medical Library

花下送日

我庵ふるとも余不ふるて日を経つ
そゝぎのもとふて花成高れん

郡芳二日

春ゝ生ゝよりも仏かゝわゝを
そゝぎのゝ野ふ春れ形ゝ者

陽山花

やしゝゝかさゝゝ山乃いゝゝ
白ゝゝゝゝの人ゝ花ゝ

霧猿

中ゝに生ゝゝゝゝもれ
日ゝふゝにかゝる花を人れ

羅漢

東西の形ゝゝの羅ふ春て人れ
むゝゝ形ゝゝに猿さゝゝれ

名不花

Kitasato Memorial Medical Library

ちる桜ゆゑいまはわたらじ瀬川
なつかしさをぬる袖にしぼるべき

水上恋

新らしき花のふもとの川岸の
さゝなみもなくかぜふく

湖上花

さゝ波の色にそまるに鶯の
ようせゝやうすゆ春の風

不長恋

草の色をあらそふあたりにて
日ぐらしきゝなれぬ思ひ

恋恋祝

君代ふくしくてふ千歳あまを経ん
さつ枝ふさゆる花のつゝ

花新深水

岩そゝる流つかはちのさゝなみ
なつかしき新とちるかゝる
はちゝまのあらはれと



Kitasato Memorial Medical Library

ふるさとも小春の空の新

柳色花

吉柳の糸につもりてこそめぐらんを

かの野ふきもせてもちるさくらと

吉柳小枝とかぜ吹ぬ

やすらはぬ花ちるまとふきとをる

鄭櫻

うつつきかき岩のたわ小雪ふる

岩つゝゝゝゝ袖ぬれ

おもひたゝゝ船岩の海の岩し

多代もかゝゝてさ紀出にけり

花ちてゝゝ夢のかきハ世の

ものゝ思ふこゝろ

ある花の命ハこゝろハ

彼方こゝろの花ゝんと思ふ

こゝろの人よりあハゝて

孫生二日ゝゝそ十七日ハ

大井の宝来物ものもひ小ぬ



Kitasato Memorial Medical Library

こゝに八重桜さかりなれり
此日ます春の御ちい紅乃
御ものゝ花さかりなる紅乃
し寺ハ八重の花のちりなれ
なるこゝふまこゝるぶの色つゝ
し和より西光寺ふ紅りしゝ
ぶハ皆ちちりり
人ゝ歌ゝさゝと踏りハ
ぶのおもひんゝそやゝき

かつるこゝろ伝厳山とゝて
命所ゝふまゝ人喜てちきるゝり
こゝゝハぶふよゝあるゝと
月月十九日ハ光ゝ山あゝん
一ぶゝと六七人ふ山ゝちはれ
御ゝゝ山ふ紅りてえ谷中の
御母ちふれハ花ハのゝに
歌りしきゝ
踏ゝゝふまゝ桜ハかゝ道ゝの



Kitasato Memorial Medical Library

都にて庭のうるのこと也

又より道都に觀山と云所にて

八重はなる桜花咲てその跡ふ

ちりつくなる也此花咲て

澤の川やそこの亭と云

ふて八〻山吹の咲こぼれて

水色山吹と云歌ふてうつ

清き流れ谷川のまゝの山吹うつて

ちるかな

又同所に一本の桜ありて

やう盛りにて水上花也

と云を歌にて

十川ふ歌にて

ぶしにて花の咲こと

けしよりも山ふ和歌

ちりつくなる

さのふとゝひたるに都も山



Kitasato Memorial Medical Library

しらゝ花いたゝきはそにたる
こうる路ゝ
戰あゝたゝ
かゝの名田に性あり
又堂の名成て
しきたゝ思ふらひ
こゝのかきゝ
又ふきゝの名成て
ちゝ特の跡高とり人



あゝゝ雑ゝ
花ゝ彩ゝ思ひ
仕りに感恩に
八重桜の重ふ成て
うゝん花の重ゝ
法の庭ふ
花ゝ
山ゝ
彩ゝ

Kitasato Memorial Medical Library

為ひこうかなくて櫻のちりこれを
そなたもそなたにたまをかしわらを

紫藤松

紫のゆかりのかぜにたとへたる
ふちまつ紀かくれ東のやまの山
むらさきの雲のうちのそれをこそ
かさねかさねとやうへをき

掃部寮

むらさきの神えをはふかたちかより



花とわすれてかさしけるふち波
形かたちはなもむらさきの雲のうちかつ
ちりもしきとしてやうへをこそ

早夜

卯の花と雪のいきとやまうくん
時鳥花をわけのうらひす

夏夜

夏夜まてもはなもきたるかの
世のなかしひとそ夜こえしの

稲花

原山ぢまるの新りのこゝろ花やちる

まれ〳〵うかむ岩川の水

彩物姫月

所れたて〳〵ふ敵の寡やの板ひさし

青紫ちらてゝ月をかゝさに

花新りてまゝのこのちふ月の

かけちられいや光りかゝる

董菜京鄙



高野の月光ゝとすんまゝ

うすもゝまに嶽を白しり

まられ所新りこうゝ作をそふむ

ちもゝさ紀ふ柏を除とゝ

早夜侍郭公

郭公ちかやあすやとすりちゝ

ちゝ新ちられとちつこゝろ

彩附ち

この孫ゝ新ちをハ光のこゝやとゝ

Kitasato Memorial Medical Library

人間に小豆山おろしきすゝ
ぶの屋根のきに吹れたるきた
もゝ松かゝ　て高野の一夜
かゝる山路の淋しさ　　
明ぬゝきぬこゝろのやかたり
　かゝれ
我のゝやかいかゝ京のうゝのみ
くるゝよりゝれ　　
一夜ゝ海棠の恥さはとち

きゝ　　
ひしゝとゝゝゝ敷ゝと
て少ゝゝんゝゝゝのゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝれゝ
ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝ世のゝゝゝゝゝゝゝゝ
夜の首ゝゝゝゝゝゝゝゝ
すゝゝれ搗ゝゝゝゝゝゝゝ
月色ゝゝゝゝゝゝゝゝ
　　

時雨なるわかまつかえの
うつろひかりあり伊東をうつに
紅葉赤
玉川乃きしのうちなるわのたえくふ
よるそそくみそそくみの
毎夜俤時雨
時雨なりうつと思ひそめしくも
そそぬいくよそうつまもらぬ
ほうそ袁伝そ伝てまそうたわ

白中伝友
うちもちる彩の志のよ乃しのひ
友伝もつる可日の
世をすそ山ふ人をそそれの
ふるタそれ友そそ
簷橋
彩ちつ称うて橋ち乃
むうしそわそ白り

Kitasato Memorial Medical Library

高橋風雅

折ふしの事共の心なれ
ども新しきものの心
道別のもとより捨て新しの新
枝の古枝なりとて海の浦
より見えとものして金線とい
ふ事なり抑さ捨て新しきこと
むかし上東門院の白新ふとて
壁吟品後海浦詩ひしの歌

其品の句ふ　其中流生

意見書とおれい
これやこの御法のそれのそ庭ふ
つくるれ新のうれ古枝
御品湯時
ふ物のそれもつねなる
清きの枝うるれ
見線
苦るうるやそ海と海くそ

さ[illegible]ふおもしろ[illegible]
吹[illegible]の[illegible]その[illegible]
[illegible]きまの[illegible]と[illegible]
[illegible]

野[illegible]

[illegible]ひ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

蓼

[illegible]の中の振かたのこと[illegible]ひ[illegible]の[illegible]菓
いく年こうけて[illegible]
心かつもあ[illegible]ひ[illegible]
[illegible]

西洋[illegible]人の[illegible]

いいて

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



Kitasato Memorial Medical Library

曙の月新のこゝろたゝ根ゝり
山ゝにきゝにゝたゝ根ゝり

道ゝのもゝとうちひゝこゝの
すみゝるゝの塩根ゝもあ
ゝるゝの水のゝゝたゝゝゝ
ゝ

水妙のきゝのふきうかき根ゝ
のふゝうのゝふゝとゝゝたゝゝゝ

赤ゝ部ゝ

きゝの耳ゝふゝきゝゝひゝうゝゝきゝ
ゝすゝてゝゝふゝゝゝまゝゝゝ

曙時ゝ

高の月新ゝうゝきゝのゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

蔓蕾

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
根ゝゝゝきたゝゝ

Kitasato Memorial Medical Library

もてつまでこそ行ふらめ
祈こそ引てかゝる諸人

あはれなふるの中をたゝえて
こゝけのこゝろの色塗り
世の中をあはれ人も
みつのこゝろ苦ふ

文政五月

あやめ草ふかてかて
蓋の京北白ふ

山田ふ苗

ふる苗こゝ山田うゑこそ
こゝ行ふ秋と祈こそ

はる彩色

あわまて濡るかのこゝろ
けさハつるの嘉

名所海

たゝえ世こゝ海のこゝ
神代よりかゝるやうこん

夢世

西京あまをの市のこゝ
こゝをたゝえこゝ

行四合ふかきうて橋の
さきたるとそて
志川ゑかき花橋のあるかたを
いてもうしのこゝ成是ん
五月六日岩菖蒲本歌
いろ〳〵に詠るもつしあやめ草
きのふの影の清まさりにて
おほわのまくりの後
杉立てる三輪の心ゆかしみて
大文人てわるさい清らる
橘中橘

和わゝる大文人ふしをひて
たちぶさけるこゝ詠うと
東己菓
ちれてゝ破の菓至法ちハ
毎りわうたるものハ形
三輪山
是ゝまて三輪のゝ人ゝ思ハ
ちわれハ引る杉てかゝすれ
郭橘
ゝ其色こうゝ郭
ゆ日ふまゝ橘

接る色
かゝ大和色や谷ゝと接るの
こゝろもとゝ
樗
あ原毎ゝ山つゝあ
ゝ
ゝ
香椎尾山の六十の四月ふ
よゝとゝ
かゝ尾やあちゝ瀧の瀧ふあゝて
きゝうゝひゝゝ思ゝ
こゝ月ゝふ

原のゝ
四接行あゝせの水のゝ
こゝ毎ゝ清ゝ夜の市屋
即毎秋を
夜もゝや来即すゝせに
ちゝ秋ゝ
稲妻
ゝ市のゝゝ香の瀧ふ
秋夜毎ゝゝ
松の花
あゝ毎ゝ水瀧ゝ

Kitasato Memorial Medical Library

こゝ〳〵宮まとゝ長崎師

河上夜月

夜毒の河瀬さゝうる月ぞかゝ

ゝりうきゝ〳〵風海ゝたり

唐あるき

わう唐のゆゝれてふるもぬ

かやり火くもるあるの秋

秋松

風あゝき松をこのもかきゝ秋

たちもんのゝ〳〵枝ふたり



石蕗ふ紫ゝ

色海〳〵ゝもゝかんちのゝうゝもて

苟ふ山ゝ山ゝ北あふ仏ゝ

苟ふ苟ゝ毒ふたゝひてゝゝきぬ

ゝちゝてゝ久ゝ時のゝ紫

宣徳尼の十二回忌に詣墓

まゝて懐旧のゝうゝ成ゝる

十年河内ゝ二ゝ野ふ月ゝてゝ

さ[illegible]やら[illegible]夢さて[illegible]き

鶯[illegible]おい[illegible]の[illegible]のこのもと

もう[illegible]この[illegible]音ふこ[illegible]

又日[illegible]出[illegible]春[illegible]て[illegible]

ふ[illegible]き人[illegible]小[illegible]て

年[illegible]て[illegible]ひ[illegible]人[illegible]

わ[illegible]面[illegible]の[illegible]と[illegible]

松井[illegible]の[illegible]

て[illegible]

[illegible]世ふ[illegible]の[illegible]

あふ[illegible]川のか[illegible]の堤木

秋夕

我の[illegible]秋の夕[illegible]思ひや

かな[illegible]吟[illegible]

寄海

[illegible]の小船の[illegible]

[illegible]方や[illegible]

[illegible]

Kitasato Memorial Medical Library

枝ゝに咲き松井の露もて
なるかゝりてふゆり沙れり

露ふゝ遍
露ゝなれわかるやひうらん
そもる楽さ沙の弟みし事

ゆきの日なるうゝ雪
尾花はくきゝ水毎に楽ゝし
かなるこなるふ打きひきて

九月九日

きくのふかきゝとなるやいろ沙ふ
かゝらの露乃ゝ加ゝ
秋の夜沙の露と消て
ゝの露ゝとゝるこゝに紅葉
ゆきふ露や露もゝん
露月夢
ゝる月ふゝ沙ゝ
夢ゝ月ゝさくゝ月ゝ
かれの夜

Kitasato Memorial Medical Library

清水に水音秋乃百そまも
ふ秋しを色ふかくもそめ
相尾谷こうを吹上て蔦のはけ
さきそめ早き寒こそ
社頭紅葉
蔦とくしの紅葉ふ杉原
たりの神のこのもとすする
山路の際しかもふかきふ
ありてもかなし神ひの表
秋成とうむ
ふかそ秋乃ちこうゆ紅ふ
ゆとまを老ふ
方よりに牡の尾谷のまを紅ふ
ふとうを秋やとうに
佳景
秋の野ふ虫のかうえん
こを所ゆ紅の錦ふ
さうかりめ紅ふ

Kitasato Memorial Medical Library

ちはやふるの歌をもとりたるなり

あらたまの年をまちえてとし

ゆふまぐれ秋はいとあはれなり

もゝとせ人をこふる君をたれ

ゆふぐれとなりて物かなしすき

ぬすもかくらんきりの戸

人くれぬ庵の柴の戸のゆ

吉野人と強立まて

ゆふぐれの柴の戸はた

ひのあれとあふすきけん

持夜ひ方

小夜更てよ品の枕ふるくなる

たうさふくとそうすこりきかと

栽花

吉野の吉花ゝのたゝ物

ゆきうゝ原てあるとも

秋のくれ

ゆかゝらいとうとまれと

Kitasato Memorial Medical Library

とむらを花もかなしく

秋の日新梅園にふれり

さかりて

かなしさを書くもちきりて別れり

秋とゝもすきの国の梅枝

日すゝる川を

幼人ゝまゝうえて去る川

かゝる船のきもふかなるも

秋の日麻布にふれる

人ゝの名ふかく通れい

梅を手やこゝに住きゝの花

こゝろ〳〵の色書くそんる

日日雨降ふて

秋の雨ふかゝるもうれい遠ゝを

かゝるふるふかふ遠ゝ

日日宗内の名ふ書りふ

ひかりを遠い

秋ゝかゝ

Kitasato Memorial Medical Library

ちるれの音あ者ちてうらん

さし芝秋のそそ木て嵐そけ

かりられか

ゆふのこ此秋ハ名ありの音ゆ

葉宮の林も袖を比ちり

ものゝ(ものゝ)そやとりにる赤

うみ竜ちかりにわい

ゆれちるふ上海の海のあてこと

方百に出る行日ちをにり

冬部抄

旅人の海りやしまるを川乃

ふる化方百ふこのちり

冬文衣

冬の夕て吟風をーやまふ

かハのこちもおなちこ

芦秋ハうかりしを藤の毛こちり

吟月しうるを也ゆ方乃赤こに

山路抄

Kitasato Memorial Medical Library

烟り立ちぬき出こうけとなりにうつて
小きての山ふかくはかけそう
君代ハ木高のかけそう名のこふて
あやふき道をそうて御ら指人

波戸

春のふかくすてくふ山ハ乃
小きのうつ日をそふて御ら
下かくもおのう城路とおひしてや
かをしの日の春小枝御ら春

澄の川をとふとうを
ゆうくくの立ちくひとなる
ふ少くようきくおもとを指そて
うくも立の日の川とをもうくも
澄の川かくれふくえにくハ
うをくくおもの御ゆや指ます

春ハ小沼石

まきの戸小春をふくとをハ
そくくくそうれすも春をうれす

Kitasato Memorial Medical Library

ちりかゝる雪に成さまを見て

ふれふれふれふれ雪ふれ雪ふれ

雪景出来

夕日新たなれてくらめる雲戸を

かゝやかせ雪ふれ雪ふれ

路をなれ雪の高たえて

よものしられのくれてまに成

食

きゝなれぬ鳥なりけり



ふるさとを思ふ

雪ふれ雪ふれ食ハこゝろ

ゆゝしきかけて雪の如ハ

冬の日よ

人しかしく雪のゆゝの夕日新と

ゆゝしくなる雪ふる

撫語言

つまゝる人ちゝ雪ふる世ハて

ちゝ新ハゝ雪ふる

Kitasato Memorial Medical Library

## 推案

かゝ事のあるやうなる推案の
風なきかゝに枝さはぐなり
本来ふんなるものゝ推案ハ
行きの後影ふゝ移るかゝす
むこなりの男の一間張に
なりてかゝ吹本松の吉乃うき
ちゝもゝ行ゝもあしもゝはは
かきもあるゝ花ハなこりなるゝて

醫學隆盛



動かぬに動れゝ日を見てまれ
神谷原の佐渡の川を以
ゝゝに移りてゝゝる
力移りて一の瀧と行ふ入口より
長ゝる水ゝたふのゝ
日ゝ日ゝ金強寺と以山ふ
移りて探の方とゝて
他人ゝ心ゝうゝるゝ
ゝ移ゝ山ゝ

Kitasato Memorial Medical Library

前四位度の一図ふ
皆人のもち〳〵位やとらん
のとふみちのもきりやる
四家宮
ふる宮に小田の稜のうらわて
ものさかまつ村雨なり
梅雪
枝さそう花新のかまふきを更て
うつやもちれのうきふたり
ふとまより分てもゆるの梅未ハ
あらはるはもるもれたしま
雪
宮の上男〳〵の四月れ動つもみて
あもれ乙女の袖ふんたり
ゆそのれ林ふもれ長雨ふ
ふもかめのそそかあすん
家春は
ちもさそそ春山面の

Kitasato Memorial Medical Library

そのうちにふかくもしらぬ
うぶすなの尾上のうへや出ぬらん
ゆくりもなくもあるかな春の雪

老人述懐

いくとせかうゑのゆくすゑをまつ
たえすかりしたくひのつりをも
そのうれにかくれぬさに春ふれ
のうらゝ支のうらをかき

寄海月草

おのうの松やうちあれはうらさびの
夕ゆふ浦のみつ

松ふるやもゝとせ

ともしくふるかなの烟りそんとや
松はしら雪をとゝ雪人

神楽

ちもやおくものかみ神楽のかとをひて
ゆかのうらのそをけさ
神のまをすとうの立ちあつみ

とる楳茶ふの中ゝまつ落て

松ゝ

みちのくの外はまゝの松山風吹ゝを

夕浪ゝのたゝかうこゝろてゝ

薄氷

ひかりのゝ外は流まさほとゝもて

ゝ水ゝ一ハ為ゝ薄氷ゝる

ゝ

ふるとうの玉藻の床のうき枕

ゝ水にまつゝかゝひちゝ

ゝの海の外の浮巣のゝかゝも

ゝ氷ゝゝ氷ゝゝん

久ゝ梅

ゝこゝゝの外ゝ

中ゝゝ外にゝもゝ

三悔の山おくしも深ゝ松ゝ

かゝにハ秋の色ものゝ

光傳夢

Kitasato Memorial Medical Library

夢の中にわすれがたきこと
をもすれば夢のなかにぞ
ありける心の花のうきまくら
うたたねの夢ぞ
なるらん

名残惜儀

日あしのの小田の苗代
をもとにかきなれ
ぬ小草のなかにもれ
やすすしき蛍
なれたるうらの
家之蛍

灯色深秋

老うらもうつる
かるもあり
むつのうたもやしの
深秋のよさ
年若井の家
ゆりもやしの
うあもものの世の
寂光ふるる

Kitasato Memorial Medical Library

いとうそもはなくもそのあきらん
そのかのかきのものの
のわきて
名々動物
さくらのはなはなりそせいかうて
ときのかれるものにやあらん
ものにはかのまつりまつりて
ともひうらすあるかり
神言
村ーかれるかなるもわと

ゆきふるこのこころ
そのはのはうそもあるかとも
よのかはかのうやあらん
名々張と思ふ
張そうー伝ひ
いとのそもそもそもの
ものとのあるもの
ものとのそもそもの
神言
術言

Kitasato Memorial Medical Library

昔語りすれば海西尼わすれ
ぬ月より外にこゝろ
さす波のもきくせこの花ふる
志賀の浦わの言のこゝろ

竹葉大人より
梅の木こゝろ
梅の花初こゝろ
梅の花初こゝろ
梅の花初こゝろ

早梅とて人のもと

書きそへ花ふるこゝろ
こゝろ梅の一枝

情除歌

四日よりこの年のこゝろ
ふる雪のこゝろ
早梅と人のもとより

歌

千代ふるも白人高こゝろ
君のこゝろ梅の一枝

Kitasato Memorial Medical Library

きこえなくいはうそうの代の事とぞ
そのうつくしかりし白玉椿枝
常磐
色も日もかつる時の世のかはれる
影ふるさとに色もとまりけん
ひかりかも常盤の色はかへん
ちよもかはらぬ君の御の山
岩根ふる松の風
山風ふかぬ時もなし

ふるひかりかも木のもと
附百重
村雨の山ぶしやはのこと
ゆくすゑはいかばかりらん
冬田
氷ゐ
路ゐ
深山木
大江殿や

[illegible]

冬は消

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Kitasato Memorial Medical Library

又ある時くとんて君もうすす
つゝうちとけるものゝ
うすもとこゝきこと君のゝ
ゝれちらゝ海〳〵物とゝなら春
冬は海
新うりすの新張とちれて
さるまゝとこうかくこゝる
年四十五
仏ものゝ時に方に来ゝ

すきり年のうちわたなる
ゝの四〳〵春をむゝ
春わゝもかすむしてゝ
芝ゝ
松ふて君のゝに文ゝうち男の
のゝ玉川ゝ
海冬〳〵作
越の海や春きゝ物ゝ
ゝふゝゝの春

Kitasato Memorial Medical Library

名和の
浦ゝ
吹ふかぬ
ものゝ
浦の風
吹ふかぬ
ものゝ
なりけ
り
白
雄
雄波白
ふかぬ
ものゝ
なりけ
り
白水
浦
浦きぬ雄波
の
白
ものゝ
あるまさ
に

新神
神
神
ものゝ
なる
見
てゝ
ゝ
ゝ

ゆりはむこうの毎月の詠まきに
言かきわけてたとえをうり
炭竈の烟
なすわたのくもゐもとめるる
小野の炭かまの烟りたえまを
炭かまの烟もうりハ細くたゆたり
大原山小野言ふらし
里炭竈
里人も言ちかくやいそらあ
けもあまきの小野の炭竈
こゝ里ハ言ふ山きの炭かまの烟
ふもとたゆたふ京の山
家言忙
海山人も言ふまとそらん
まれ山ゐてたゆ路ふたり
世の人ハ言ふもとまれ
なるとまふ小言をとらん
後宮佳人

言の本ふかくとゝ
言海きくその必ずしも分明て
枝もたわゝに咲わるゝ桜
つゆのとゝ花とゝ
ふるかひちわやく樹高の高
昭和五年の春
松いふもきくしを人もこゝまらら

除夜

さゝたふ年の別の思ひ

ますゝとゝまきくの元をうる
ふうちゝに元をうるもの
あすようの代の春と思ふ

海をとゝきく不行所ら
ゝゝの角ふ春立ふ
ゝゝの角ふ春やまわらん海京ハ
きゝるゝ海ゝ如かすん桜引
月下西の源夜
とゝ春潮あまのふ舟ふとゝ行ゝん

Kitasato Memorial Medical Library

ちとせのとしをやくしまの
　　四月五日の元日
横雲のあけぬしらぬ代の吉ふ
なるる礼海の波のちかまき
　　とりの元日
数ふれば十ふたたびのあるまの
ひけすは春とてむかへきなれ
　　試筆
初日新玉のうらにあるまの波

たちかへる花のあふかひふかり
　　梅の木うゑる日
常にうらうらふきとかるなる
きこゝは春ゆてゆとを数へん
　　春色任東来
ひのもとの春とはのの花やはいろん
春とてうるに春ふかり
雛の時あつまに立春毛と
ゝあとこの人もまちてえんとん

Kitasato Memorial Medical Library

春宮似花

立渡川かすみ白し春の宮乃
花や咲らむ春ハ心
春風の立ふ日より野辺
ゆきこゝろ花かそへつゝ
武蔵野はあらさらはいと
かしこうひそ鳴かる
たゝなはやうらさらの春と小
かゝひこうひ菅の春

つゝりの日春立ぬ宮
うゝみ
はあらけ立春のつゝりかな
たゝるとてみもうゝ宮
年の内春立ハ
しりき立春そうゝしき花ぬ
よそうはきうゝ
る日
春日すゝ春日の野辺ゝ



Kitasato Memorial Medical Library

杉小屋にて
俳諧のきゝの発句
なの日に人の引やのこゝる

芳葉

雲の峰こゝる空はゆきこゝ
こゝにてこゝにてこゝにてこゝ

吉風に同芳軒

こゝこゝこゝ風こゝかこゝれ者の指
なくてこの雲のこゝのこゝ

やしの屋にこゝるの和風かこゝ
こゝ民もかこゝれすゝ涼や時元

橋嘉

大雲もかすみかこゝ
かこゝもかけこゝ天の橋立

杉仙嘉

屋かこゝかしこゝ
あこゝの河原の
あこゝこゝこゝ指



Kitasato Memorial Medical Library

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孫[illegible]風

梅枝とさくらの木[illegible]

袖と[illegible]

春[illegible]

[illegible]

人あらの木[illegible]

[illegible]

梅の香[illegible]

[illegible]

[illegible]

花も[illegible]

[illegible]

海[illegible]

[illegible]風の[illegible]

Kitasato Memorial Medical Library

ちんぶそうとも ふかくて ちいさくなる

赤蘇 同

志をもちき 赤の蘇のうつりたい

蘇うたこの人の成のてうて

宮ものを 宮ものを 宮ものを 高かう

ふかの 塩ちりふ あるる 美味

水色 柳

春風 水の 高 おも 吟ふう

うつる 柳の 新 うつ うつ

ここうふ 法師 の

つさ ー 春の 柳 ゝ

古風 告 梅

やこの 春も 風 ちの あれ ふて

梅の ちり と かり あ ふ 乱れ

うち 乱 ふ ち 春 ち 人 ハ

かも の か ち い ハ ち 落 ら ん

実 春 の 雪

雪 ふ か ふ こ ち ち 破 の 美

Kitasato Memorial Medical Library

[illegible]

長中

長崎かしまてやんもの長柳

ものしけきうしひすの長

四郎長

長つの男いふるたまをすちえてや

柳郎もしすかてすいつ山口

花代

ひこうと山名ものもかりもの

夜草

いろいろ歌うてえもる夜草を

君のさうえとなうひたるかも

柳垂小松ふるなれ第ハ

多代も御ものへきんみとうかえ西

夜夜語日

海ーたいつ中

てえる彩やの長

かもも日代と

夜夜祝日

Kitasato Memorial Medical Library

なかれとなげくとわきてそうるる

雷

天津雲ゐの雲井にはたらく乃
数つゝ[illegible]わたるなるかな

蛙

世の中をうちもなきてうゑ蛙ハ
こゑのかぎりにはらしけるかな

宋長百

ふる雨の音ときゝわけぬのゝ小
雨ともなるゝ[illegible]の系

雨意

ゆゝしきかゝるかな系の袖ぬれ
いつ年ふるゝ[illegible]と

氷室

人伝ひ[illegible]の涼しきを
[illegible]の山ゝ[illegible]の氷

松下遠涼



Kitasato Memorial Medical Library

夕くれはまのはるかに見わたせば
たゆたひ流れくるゝ夕風
岩川の三つ巴の水はけの
さらさら立より水もしらぬ
春祝
清水の流れ
ちとせの秋と君をもうまく
海をこゆる
海の海こゆきもかの
海のかりかね

又ふたつ
別の道立
松の
旬
たちの松と
秋の
流れ
松くゝ
ふたつ
の
の
の

水まさり流れ激しく
らせの川ゐそ波流れ
きうつる波の白花ちり
扇
さーかる扇ふく秋のうつらなく
夏ちかくなりぬるかぜの
猫人のうつ形ちまさきかも
なれのつきるかぜかなり
夏

山のもとに初ちる調ふる夏のもと
まりかなるて何かうつき
夜懐旧
をかはもりーさのひそうう時と
いうにうれきさ言物ゆうん
久保七夕
七夕ハ七宵なりとちまそ
あまの川ふに業衣ゆん
きのの秋ちれ久ちの



Kitasato Memorial Medical Library

てのひらに立ちわらん

鶏鳴暁

とそかに行くわかれまたそらはて

雁の行方成まさりて夢の床

海棠

さそてたふれ花もいとはしき

世のたくひにたとへ侍しに

ちるやそ春にたわるる成

とそ思ひなれまふらり

姫夫人の人々

東海とのの屋敷神まつりは

えもいはぬみのきさらぬ春き

たちまさりたる姫夫人の御

〳〵の御屋敷

海棠

有為の世はたのもしかりけり

いかなる人々言の葉

海棠也

Kitasato Memorial Medical Library

和田左京亮義盛が
うきまくらとなるかりの
宮殿炬燵
小時うハ思ふ人へ
ゝ
ゝ
ゝ
雑中夢
ちぎれ男ひ
ゆゝ
七夕行

夕月夜
ちぎれ
七夕河
一年に
河紀ハ
七夕
織女乃
宮乃
七夕

Kitasato Memorial Medical Library

河の代ふちまを神たむうゑきの
そゝ一すゐ海すゝ所ふもれ所ふそ

七夕夜

梅雨小花ちらえもかゝ
うゝしやもゝ花もゝ
一　七夕前

男ふゝかゝもゝ七夕ふ
ゝ一ふ一ゝ花ゝ所のゝれい

七夕祝

手ふ神のゝうひ一ゝそ
ゝかゝ人合のゝ

金

陸奥ふちくゝふきゝて
ゝ所ゝ花ゝ

所草前人

秋ゝかゝ手種ハ花ゝ咲ゝ分て
ゝ高ゝ所ゝ

元ゝ百合のゝ花ふ一ゝ

Kitasato Memorial Medical Library

さらしたる人家なるの[illegible]

神社前萩

こゝろ[illegible]こゝろ[illegible]庭の萩の葉に

[illegible]秋風[illegible]

隣前萩

風[illegible]

[illegible]

萩吉[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]萩の上に

夕陽ふ[illegible]

夜[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Kitasato Memorial Medical Library

ちりぬるかぜ　ちりぬるかぜ

かゝる　衣きぬの　ふ　きぬ　人と

ふ　ゆ　の　ち　ま　ま　ま　ま　ま

宗長蓍

わ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

む　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

人　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

萩家言

萩の枝ゝ立ちゝ露の色深て

おもはぬもうらに成ふ心ふかり

紅葉乃たえ〻の萩の下

枝もたゝに露を立ちり

鄰水行月

ゆ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

出　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

宗行月

行ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

Kitasato Memorial Medical Library

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつきの湯つたへ西ゝ
百首歌
村雨ふれはつゆ
ゆ
ゆ

行くえ分かれぬるかの

古宅荒

跡分けて行く世のさびしさ

さまざまに庭の荒れ

清風清世塵

我者の影ばかりぞ

うき世のそらぬ

秋懐旧

ふりにしかたの

松さもしの

去年のかきぬ

一萩の家枝あい

さく秋の家の主人

秋月

人さりぬかふこの

さびやかうの

十寸筵田こそ

おそなそ

秋風

あけぬ

公の

世に

文

Kitasato Memorial Medical Library

藤中比丘尼

藤のうちに行ものの多くて
あるきの長ちうくるしらん

神楽日

うの鉢ハまるゝ多く
鉢波の山ハ長ものもたくさん

梅京日

梅京より多くふるゝ日
あるきのものしのものすくなうる

ハちを日

波のうれさくるやふんより
の間

きのうちに鉢ある日

行ま日

小夜ちうハ日こゝ
うたかハ山の海もる

野徑日

山ゝ野ゝまゝ
日出人ちもなりやせ

ちを日

ちをかゝりて
行きのうすくて

桜ち日



Kitasato Memorial Medical Library

たひこころも野はるるまてまつこうも
ちてそらに月のてりはえる色

月似鏡

くりりちきは月はうつるみのてらに月を
むかうつてきのまてうつるかたち

月磨ん

海心色の鏡ふきたる磨を
つつこころもふきてそ月をみ

神上月

そらくもあとよりうすくもりをも
あれの春ふるきは神上の月

左宮月

まうきりくのたち義のあのうるる
月ようちうに袖ふる新うる

秋山月

もみぢ山ぬうえにかかるかすみ山
かけてさやたるき秋の春の月

岩方月

あきかちとそうえに風の春分て
白波うつる岩の川波

南月

村雨そそぐてはるの月きよう

うきくも海に沈みたのくゝ波

月前雁

和哥のうらに浮きはのみち群居て

月の夜すがらなる友雁

海辺秋夕

うらかゝに秋のつゆわけ侘られ

きてやとまの浦のうゝ波

雁波に打の打ちからゝ秋ちと

もゝ色出ゝ行紅葉

毎夜月

神ゝの出ゝ夜ちゝ人と

行きの菊の花の光り神そまつ

菊茶屋

咲ゝようゝ満ちみちも色香なき

きゝふゝ行の花紅葉

年ゝ載菊

いゝく秋もあゝ満ものかゝとゝに

うゝ行にそ毎ゝ菊の色香ハ

菊送る秋

百草の露のうらに秋きゝ

行にやそゝ秋の神宮

菊の露水

折てんとすれば露ぞこぼるる
かつてしられぬ袖の香ぞ

菊の色も
ものとなれば
ものとなれば
おのうつろへ
ものとなれば

菊作人

君ぞ見ん庭のまがきの菊
ものとなれば
ものとなれば

菊の雪

ものとなれば
ものとなれば
ものとなれば

又ふくかぜもなきなれば
秋こゝにたゝまほしの菊のさかりを
いとうるはしくかゝるもうつくしき
新宮遠松
久嵐川のほとりとゝのうこゝに
あれたるの新宮ちかくそわふたり
雪麻
うなゐの尾上の風ふかぬあるも
うけひかりはふかぬ麻のかゝり
神居

老の年ふるまゝにまかりぬる小舟又
もあるつゝなるも海松
秋ふかくこゝ神のもりきこゆ
即ち己の新宮うつくしき
海上厳島
いくたびの波間ふかくとわたりて
松のかゝふもうつくしかりける
越の浦波川より出でかりこゆる
つゝたゝなるく浦つゝしして
東下樽衣
秋ふかくこゝ川の篠やふかくこゝ

はきの花毎ふきあるらん
時雨とすぐる窓の外人の行もあるや
さびしき中なるもとの屋
菊園
秋屋のうちに咲ちりてやあるの
うつりてもなほ色ぬ菊の
家にうつる秋屋の十月の菊の
風のきえぬふかひあるこそ
九月十三夜
秋ひとりなれば後の月
思ひそえる

昔論

思ふ人はいとゞ寒の春の花
もゝとしもかゝぬ松のあるは
由蔵ふかひ宮ふて竹不毎
秋とふ成歌ふて人
くゝもえる
ふひもゝ深りの牛とうゝわれ
世ふなきなゝ秋とゝわす
風前歌
あきゝゝやすの雖北の風をし

昔論

うゝ吟ずるの頃
ゝこの山寺のそのあたり
新高野のうゝ吟ずる
四郎略
小山田の稲穂やほうたん
しきの野花咲き揃ふ
秋深きやうの春のそゝ
さゝと文てきゝ略のゝ
ゝの春ゝ

けゝゝふゝる吉かゝて吟ずるゝ
板屋とゝふゝ秋の春ゝ

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library